



HABITAT まちづくり通信 Vol.17



「ハイチ地震の緊急募金にご協力のお願い」



2010年1月12日（日本時間1月13日）、カリブ海に浮かぶ島国ハイチの首都ポルト・フランス郊外でマグニチュード7.0の大地震が発生しました。国連ハビタットが2月11日に発表したところによると、この地震による死者は25万人、200万人が住む家を失ったようです。世界の最貧困の一つにも数えられている国での首都直下型地震であり、インフラも壊滅的な打撃を受けたため経済情勢や治安の悪化などが起き、被害は甚大です。

2004年12月に発生したスマトラ沖地震／インド洋津波の死者はインドネシア、スリランカ、タイ、インド等の数カ国を合わせて22万7898人ですが、これを上回る被害が小さな島国一国で起きたことになりますので、復興には多くの協力が必要です。

国連ハビタットは早速現地に専門家チームを派遣し、緊急支援を始めましたが、約100万人（20万家族）の住居を復興再建しなければならない状況です。

日本ハビタット協会では被災された方々の一刻も早い救済とまちの復興を願い、1月20日から緊急募金を開始しました。

間もなく雨季に入るので、その前に出来るだけ早く住宅の補修・再建をしなければなりません。被害に遭われた方が1日も早く安心して安全な暮らしを始めることができるよう、皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

「ハイチ大地震被災者救済募金キャンペーン」

・郵便振替 口座番号00150-2-17590 口座名 日本ハビタット協会
募金方法：（振込用紙に「ハイチ」とご記入ください。）

・銀行振込 三菱東京UFJ銀行 魁町中央支店 口座番号 普通1519563
口座名 特定非営利活動法人 日本ハビタット協会



（写真提供 国連ハビタット）

「ブラジルのリオデジャネイロで開催された第5回世界都市フォーラムに参加しました。」

国連ハビタット事務局長のアンナ・ティバイジュカ博士からご招待を受け、ブラジルのリオデジャネイロで開催された第5回世界都市フォーラムに参加しました。3日間の会議では世界の都市化問題とそれに伴う諸問題について様々な議論がなされました。

会議の会場を縫って私はリオデジャネイロのスラムを訪ねました。ブラジルのスラムは“ファヴェーラ”と呼ばれています。ファヴェーラは高級住宅街のすぐそばの山の斜面に沿ってひしめくように建物が建っていました。夜になると斜面の灯りがきれいで、観光で訪問した人にはそれがスラムであるとは想像つかないのですが、中に入ってみると衛生状態も良くない劣悪な環境のスラムでした。

そんな環境の中、訪問したどのスラムでもNGOが主体となりユニークな支援事業を展開していました。あるところには俳優養成所があり、また別のところではカボエラというブラジルの格闘技の選手を養成するところがあり、スラムで育った子どもたちが俳優や格闘技の選手として自立していくように支援しています。

どちらでも子どもたちが一生懸命練習に励んでいました。俳優養成所は映画「シティオブゴッド」に出演した子どもたちを中心を作られたとのことです。



国連ハビタット事務局長の
アンナ・ティバイジュカ博士と

（左）国連ハビタット親善大使 マリ・クリスティー（右）



会費納入をお願い致します

・郵便振替：00150-2-17590 日本ハビタット協会
・個人会員 1口 3,000円・法人会員 1口 30,000円
(何口からでも結構です)



ハビタットフレンズユースの活動にご参加ください

学生から社会人まで幅広い年代が集まり、外貨コイン分け作業やアクリセサリー作り、各種イベント参加など、楽しみながら活動を行っています。基本的に毎月第3日曜日に園内の横浜エイズ市民活動センター内にて外貨コイン仕分け作業を行っています。世界のためにつきることと一緒にやりましょう！興味のある方はお気軽にご連絡ください♪♪

担当：山方、篠原 habitat.fy@gmail.com



『紛争・災害後のまちづくり』にご協力下さい

国連ハビタットは、人の幸せの基本である「まちづくり」を様々な角度から考え、世界中の人が安心して毎日を送れるよう、居住環境をサポートしています。「人の幸せをさえる『まちづくり事業』」に皆様からの御協力を宜しくお願い致します。

- 郵便振替 00150-3-568405
日本ハビタット協会・まちづくり基金口
- 三菱東京UFJ銀行 魁町中央支店
普通口座 1519563 日本ハビタット協会
- あおぞら銀行
本店 普通口座 6753952-001
特定非営利活動法人 日本ハビタット協会



募金箱設置に、ご協力いただけませんか？

かけがえのない家族も、生きがいを感じる毎日も、未来への展望も「まち」という舞台の上にあります。

皆様も、国連ハビタット募金キャンペーンを通じて傷ついた「まち」の復興にご協力ください。募金箱設置にご協力いただける方を、大募集しています。



詳細は下記の連絡先「募金箱係り」
まで、ご連絡くださいますようお願い
いたします！

書き損じハガキ・切手をご寄付ください

ハガキ、切手が沢山の人達の

大きな笑顔に役立ちます。

書き損じハガキ1,110枚で、
アフガニスタンに家を一軒建てることができます。
2,220枚で井戸一本掘ることが
できます。不用なハガキや切手を
(使用済みでないもの)お持ちいたら
「スマイルカード係り」迄お寄せ下さい。
※右記載の住所宛でお送りください。



発行 特定非営利活動法人 日本ハビタット協会
(発行責任 伊木 常昭・編集責任 山本 博子)

2010年05月発行

Tel 010-0083
東京都千代田区麹町1-12 ふくおか会館1階
TEL 03-3512-0355
E-mail: info@habitat.or.jp URL: http://www.habitat.or.jp
〒810-0001
福岡県福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡8F
TEL 092-724-7121 E-mail:fukuoka@habitat.or.jp

第5回世界都市フォーラム in リオデジャネイロ

第5回世界都市フォーラムが4月22日～26日にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれました。マリ・クリスティーヌ国連ハビタット親善大使は、今回も国連ハビタットの最高責任者であるティバイイジュカ博士のお招きを受けて参加しました。マリ・クリスティーヌ親善大使は、世界都市フォーラムに第3回会議から毎回参加しています。



オープニングセレモニー



世界都市フォーラムは、国連ハビタットが2年に1度主催する国際会議で、都市問題に関する諸国の経験、政策、共通の課題などについて意見交換をします。今回の世界都市フォーラムには、世界の150カ国から、合計13,718人が参加しました。今回の世界都市フォーラムは、都市における格差是正がテーマでした。現在世界人口の半数が都市に住んでいますが、50年後には世界人口の3分の2が都市に住むことになります。課題になるのが、都市で急拡大している貧困問題の解決であり、だれもが、住居、安全な飲み水と衛生設備を確保して尊厳ある生活ができるように、かつ、環境にやさしい、持続性のある成長ができるようにしなければなりません。



ハビタット議員連盟事務局長を務める竹本直一衆議院議員も出席され、多くの要人との意見交換をされました。



米国のヒラリー・クリントン国務長官は、都市化がもたらす困難と問題に立ち向かうために、国連ハビタットの役割は極めて重要であると強調しました。

国連ハビタットのティバイイジュカ博士は、こう語りました。
「今後の数世代にわかれわれが残す世界がどのようなものになるかを真剣に考えなければならない。今後わずか2世代のうちに、世界人口の70%が都市に住むようになる。そのときの世界はどうなっているのだろうか。そのときに、極貧状態にある人口の割合は何パーセントだろうか。都市がどれだけ地球を汚染しているだろうか。都市の中で生じる格差の拡大を改善するには、今回の会議で討議してきたようにいろいろな方法がある。しかし、われわれの子どもたちに適切な都市環境を整えるには、そのための強い政治的な意思を持たなければならぬ。そして、今ただちに行動を起こさなければならない」次の第6回都市フォーラムは2012年にパーレーンで開催される予定です。



アンナ・ティバイイジュカ国連ハビタット事務局長と



会議場にて

イベント・活動報告

日本ハビタット協会主催のシンポジウムを開催

『国連で働くということ～世界のために働くってこんなに楽しい～』

3月14日(日) 青山学院アスタジオにて日本ハビタット協会主催のシンポジウム『国連で働くということ～世界のために働くってこんなに楽しい～』が開催されました。日曜日にもかかわらず146名の方々にご参加いただきました。

パネリストに、明石康氏(元国連事務次長)、井口典夫氏(青山学院大学教授)、廣野良吉氏(成蹊大学名誉教授)、星野幸代氏(国連ハビタット福岡本部本部長補佐官・イラク担当専門官)をお招きし、実際に国際活動をされている方々の生の声を聞くことのできる大変貴重な時間となりました。

各パネリストが国連でのキャリアを選んだ動機や経緯から始まり、さまざまな実体験の話をして下さいました。実際に現場で仕事をされている方々の話はとても興味深く、参加されたみなさまが聞き入っておられました。平和のため、苦しんでいる人々の支援のためという高い目標をもって仕事ができる、苦しいことがあっても高い目標が生きがいをもたらしてくれる、というパネリストの方々の発言は、参加者の方々に深い感銘を与えたように感じました。



質疑応答では、参加者からさまざまな質問がパネリストの方々に投げかけられました。それに対して、各パネリストが丁寧に大変思慮に富んだ回答をして下さいました。予定時間では足りなかつたため、急遽閉会式後に30分ほど質疑応答を行うことになりました。和やかな雰囲気の中、次々と質問が飛び交いました。



今回のシンポジウムでは、国連で働くことに焦点を置きましたが、世界の苦しんでいる人々のために何かをするのには、国連そのもので働くことなくともできることはたくさんあります。国連を支えているのは、NPO団体・NGO団体や世界の市民です。私ども日本ハビタット協会の活動にご支援、ご協力下さることは、世界の困っている人々に手を差し伸べることになります。今後とも私どもの活動にご理解、ご協力いただけますよう深くお願い申し上げます。

会場を提供して下さった青山学院大学様をはじめ、ご協力いただきました方々に心より厚く御礼申し上げます。